

バス停からの 小さな旅



05 バス停「伊瀬公民館」(フルーツ線 山之上・蜂屋方面)「から」百間土居を訪ねて

バス停の周りは、見慣れた水田や集落が広がっていますが、「災害と地域」の歴史が風景の中に残されています。

日枝神社ひえじんじやの北を用水路沿いに歩くと、すぐに蜂屋川と合流し、そこに百間土居ひゃくけんどいがあります。1756(宝暦6)年の記録にその名を見ることができ、江戸時代にさかのぼるものといえます。土居とは、土を盛り上げて造った土手や堤を意味します。

当時の蜂屋川は蛇行していたこともあって、台風や大雨でよく氾濫しました。戦後の土地改良などによって、現在の姿となり、この地域の災害を抑えることができるようになりました。

百間土居は、総延長100メートルを超える堤として、加茂野町今泉・蜂屋町伊瀬を隔てるように造られました。当時の今泉村の主導で、土地を守るように工事されています。堤は、施工後もかさ上げを経たことで、現在のような、大人の背丈ほどの高さになりました。



今回乗車したバス

行き…フルーツ線

Aコース3便

帰り…あまちの森・

しょうよう線右回り4便

09時53分 美濃太田駅北口

10時21分 伊瀬公民館

下車後、北の水路沿い

にある百間土居から、

地形の高低を確かめな

がら西へ。微高地上に

ある加茂神社で散策

11時42分 今泉公民館

12時08分 美濃太田駅南口



▲土を盛り上げて造った百間土居



▲今泉公民館前にある加茂神社